

# ご存じでしたか？



本校校舎前の西側芝生に宮澤賢治の胸像があります。

制作者は世界的に著名な彫刻家高田博厚先生。

それがなぜ遠野高校に？

宮澤賢治と遠野高校との関係は？

8月18日、PTA主催事業講演会が開催されました。

講師は遠野文化研究センター研究員で、本校卒業生の菊池弥生氏です。

菊池先生がその謎を鮮やかに解き明かしてくださいました。



胸像の下に彫られたレリーフです。



以下に当日のレジュメを掲載します。  
 興味を持たれた方は、どうぞご来校のうえご確認ください。

遠野高校 PTA 主催事業講演会

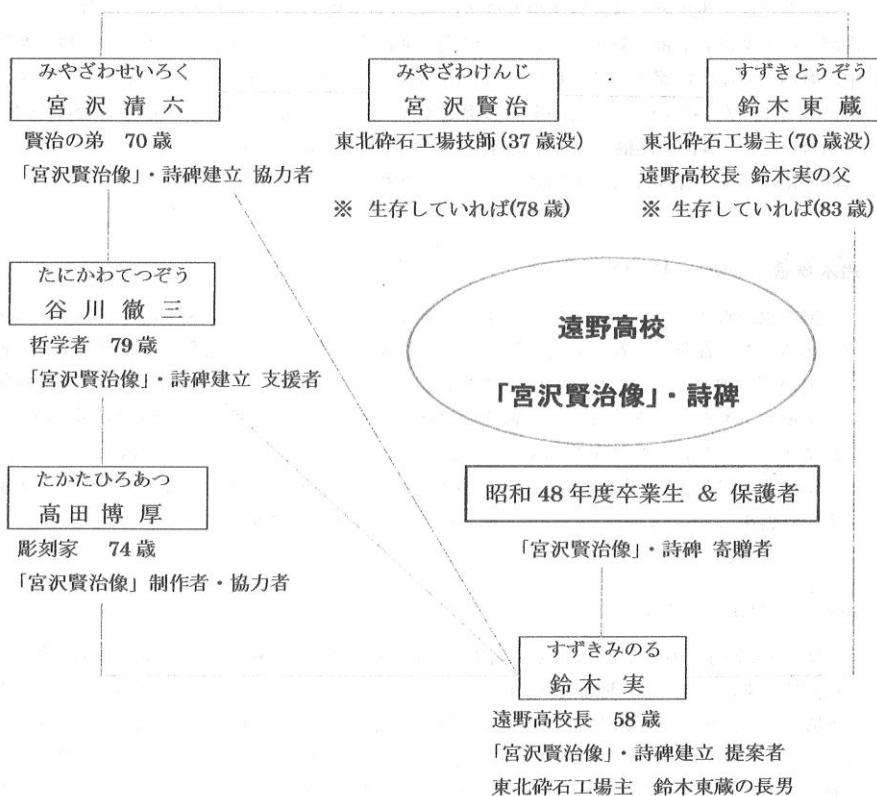
## 遠野高校と宮沢賢治

- 「宮沢賢治像」・詩碑の建立 -

2017年8月18日(金) 9:30 - 10:40  
 遠野高校 第一体育館  
 遠野文化研究センター 研究員 菊池弥生



### 「宮沢賢治像」・詩碑 建立に尽力した人々



(注) 年齢は、1974(昭和49)年6月3日、「宮沢賢治像」・詩碑 除幕式当時

## プロフィール

みやざわけんじ  
宮沢賢治 (1896 - 1933)

岩手県花巻市生まれ。「宮沢賢治像」のモデル。世界中にファンを持つ日本を代表する詩人、童話作家。思想家、科学者、教師、農業指導者としても知られる。多くの詩や童話作品を残したが、生前はほとんど無名の作家だった。出版されたのは、詩集『春と修羅』、童話集『注文の多い料理店』の2冊のみである。花巻農学校では教師として活躍した。退職後は「羅須地人協会」をつくり、農民に農業指導を行った。最後の仕事となったのが、一関市東山町にある東北砕石工場、技師として約7カ月間勤務した。その後、病気療養生活となり、手帳に記したのが「雨ニモマケズ」の詩。37歳の若さで病没した。

みやざわせいろく  
宮沢清六 (1904 - 2001)

岩手県花巻市生まれ。宮沢賢治の8歳下の弟。「宮沢賢治像」・詩碑の建立に協力した。宮沢家の家業は古着商・質屋だったが、父親と共に宮沢商会を開業した。賢治没後は、戦時中に賢治の原稿を空襲から守り抜いた。病床の賢治から、「自分が死んだら、原稿をやるので、本にして出したいところがあれば出していい」という遺言を託される。『宮沢賢治全集』の刊行を行い、賢治の遺稿の保存や整理など、あらゆる全集の校訂者として携わった。また、宮沢賢治に関する様々なことの相談役としても貢献した。

すずきとうぞう  
鈴木東蔵 (1891 - 1961)

一関市東山町生まれ。東北砕石工場主。遠野高校長、鈴木実の父。東山地方が石灰石の宝庫であることに注目し、粉碎して酸性土壌を改良する肥料などを販売する東北砕石工場を経営していた。肥料の相談のため賢治を訪問したことがきっかけとなり、東北砕石工場で技師として働いてもらうことになった。賢治の提案により、従来の石灰石粉を炭酸石灰という新名称にすると、肥料の注文が殺到するようになった。かつて村役場で農村救済を担当し、農村の貧困と農民の苦しい生活を改善する活動をしており、賢治と意気投合した。現在、賢治が書いた書簡は488通残っているが、約4分の1は東蔵宛の書簡と最も多い。

すずきみのる  
鈴木実 (1916 - 2001)

一関市東山町生まれ。「宮沢賢治像」・詩碑の建立の提案者。東北砕石工場主、鈴木東蔵の長男。高田高校、遠野高校、花巻北高校の校長を歴任した。岩手県内の中学校と高校の社会科教員として教鞭を執り、高校では倫理社会を教えた。賢治が東北砕石工場で働いていた縁により、清六の協力を得て、遠野高校に「宮沢賢治像」建立を実現させた。高田高校、花巻北高校、一関市東山町の新山公園に賢治の歌碑建立の立役者であり、東磐井郡大東町の自宅にも詩碑を建立した。賢治は三回東北砕石工場を訪問したが、一関中学校に汽車通学をしていたため、賢治には出会う機会がなかった。しかし、一生涯にわたり賢治を尊敬し、賢治についての研究を続けた。

たにかわてつぞう  
谷川徹三 (1895 - 1989)

愛知県知多郡生まれ。日本を代表する哲学者。「宮沢賢治像」制作および建立の支援者。宮沢賢治の研究家としても有名である。現在の東京国立博物館の次長、法政大学総長などを歴任した。文学、芸術、社会、宗教など幅広い分野で評論活動も行った。生前の賢治には出会ったことがないが、賢治没後に出版された『宮沢賢治全集』に感銘を受け、朝日新聞に宮沢賢治に関する紹介文を書くと、売れなかった全集が売り切れとなった。賢治を世に出してくれた恩人の一人として感謝され、宮沢家および清六との交流が始まった。彫刻家の高田博厚とは、若い頃から親交があり、鈴木実との出会いは、清六からの紹介である。

鈴木から遠野高校に招待され、「人間の生き方」と題する特別講演会を行った。賢治の人間性と文学の基本として、岩手という風土、宗教、貧しい農民に対する思いを語り、人間としての生き方を説いた。この講演後、「学而不思則罔、思而不学則殆」（「まなびておぼわざればあやちあらう、おぼいてまなばざればあやちあらう」）を揮毫し、遠野高校に寄贈した。『論語』より、「学んでばかりで自分で考えようとしないうのは、よく理解できているとはいえない。自分で考えてばかりで学ぼうとしないうのは、独断になって危険である」という中国の思想家孔子の言葉である。

たかたひろあつ  
高田博厚 (1900 - 1987)

石川県七尾市生まれ。世界的に高名な彫刻家。「宮沢賢治像」の制作者。インド独立の父ガンジー、森鴎外、川端康成など、国内外の著名人の肖像ブロンズ像を多数制作した。18歳の時、絵の勉強のため上京するが、高村光太郎の影響により彫刻を始める。当時一流の思想家や芸術家と交流し、谷川徹三など文化人との人脈を広めた。31歳の時にフランスへ渡り、57歳で帰国。ロダンやマイヨールなどの巨匠から近代彫刻を学んだ。また、文豪のロマン・ロラン、哲学者のアラン、詩人のジャン・コクトーなどヨーロッパを代表する芸術家たちと交流しながら、彫刻制作に没頭した。文筆家、思想家としても知られる。

生前の賢治には会ったことがなかった。清六から送られた写真の中から、1枚のスナップ写真で完成させた。風貌を似せるのではなく、「私の賢治」でよいと考えた。「宮沢賢治像」が出来上がると、「似る・似ない」という問題が起きた。しかし、素朴実直な東北人、土壌に根を張った本質的な顔であると、世間の評判を相手にしなかった。遠野高校の鈴木から招待され、「文化と文明について」と題する特別講演会を行った。フランスを拠点に27年間の海外経験を持つ国際人として、ヨーロッパと日本を比較することにより、日本と日本人の抱える問題を遠野高校生に紹介した。

岩手県内にある高田博厚作のブロンズ胸像

- 1 「谷川徹三像」 (1968年) 石と賢治のミュージアム宮沢賢治像
- 2 「宮沢賢治像」 (1971年) もりおか 啄木・賢治青春館
- 3 「宮沢賢治像」 (1971年) 遠野高校
- 4 「新渡戸稲造像」 (1976年) 盛岡市役所そば 与の字橋たもと
- 5 「高村光太郎像」 (1977年) 花巻北高校

賢治の像

高田博厚

宮澤賢治を私は知らなかった。フランスへ行ってしまうが、余川徹三が彼のことを書いた文で、はじめてその存在を知ったが、彼の書いたものは読んだことがなかった。それから戦争になり、日本との文通は全く絶えてしまふ、それからまた戦後十三年もして私は日本に帰ってきた。そして鎌倉に住んでいた吉野素雄や草野三三とあんなに親しく会食した折、私が日本にいた頃の著者として出た吉野が、「素雄さん出版記念会を主催の中共闘であった時、高村さんや余川さんに宮澤賢治を推薦したのは僕なんだよ。」と語った。私が

2017年8月18日

遠野高校と宮澤賢治  
「宮澤賢治像」・詩碑の建立  
菊池弥生

フランスに去る直前、高橋の詩集「耶律」を出版し、そのお祝いに数人が集まったのだが、その際に高村、余川、高橋、吉野など宮澤賢治についてどのように話しあったのか、私はおぼえていない。こうしてまた知らぬフランスに行き、日本は遠くもはなれてしまった。それからほとんど三十年たつて、私は戻ってきたのだが、今度は日本の方が「見知らぬ国」であった。

数年前に、岩手への旅行から戻ってきた余川徹三から手紙をもらい、「賢治の像を作らないか」と言ってきた。賢治をおよそ読んでいなかったが、私は承諾した。そして燕の宮澤六から母校の賢治の写真が届けられた。しかしいずれもスナップもので、仕事に役立つと思えるのは二十角の小きなもの、今まで新聞雑誌にもそれしか紹介されたことがなく、しかもそれは賢治が病んでからの顔だった。

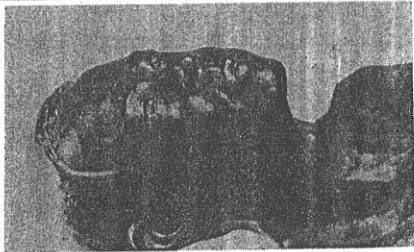
顔の形からいろいろとつかみどころがない程その写真はあいまいである。けれども「顔だち」はわかる。それは彼の学生時代の顔の感じとはすいぶんちがっていて、「一律」な風貌である。普通ならば、できるだけ多くの写真を参考にする、あるいは彼の作品をよく読んで、ある観念をつかもうとするのだから、賢治の場合、小さなほけだ一枚の写真で私は好むと思つた。「私の賢治」で好む。それは素朴な東北人、土壌に根を張った幸福つよ一律に輝きつた人間存在。私が打たれたのはその「単純」な個性であつた、もしそれに「詩人」とか「思想家」などという調昧線を加へたらした、私自身が混濁してしまつたらう。最近新聞に掲載された真盛

校本 宮澤賢治全集

第七巻  
月報

- 宮澤賢治の「神慮」……………松本隆雄
- 顔は上野か……………高橋善吉
- 賢治の像……………高田博厚
- 櫻葉亭から

1973年5月  
筑摩書房



賢治像 高田博厚作

仁の「啄木と賢治」編を私は読んでいないが、私にとつては、同じ東北人でありながら啄木と賢治は対蹠的な存在である。

啄木は東京文壇のチカタンスの洗礼を受けた「日本人」であり、彼の野心も崇拝、絶望も放浪もそこから来る。先達だった高村光太郎は啄木を認めていなかったが（これは彼の遺稿で私は知っている）、このこと、東京へ出てきてすぐに高名な光太郎に進んで会おうとしなかった賢治の「こゝましな」と、二人の「賢」のちがいが示されているだろう。

賢治像を作るのに時間がかかった。似る似ないの闘争も、彫刻技巧の点から見て、肉付などで感じを出そうとする工夫とは反対に、できるだけ「垂直」、説明的の味を削いで、簡潔な「あたりまえの人間」の顔を求めようとした。（私の若い頃の作品は「感じ」が出すまじりだ、年齢をとると共に、もっと直接的な単純なものをつかみたいと願つ

ているが）、ほんとうに「存在」するということは、その周囲に空気をまきこいでいることなのだが、仕上げて彫刻にした賢治像は平凡でアカナミックにさえ見えだが、見ている中に空気をまきこいでいるのを感じた。『個性』を超えた「人間」の顔。賢治はそのような「存在」ではなかったか。燕の澤村がほら、この作を見た人々は「似る似ない」を忘れさせて、「賢治」を感じると言っているから、私も自分のこの作品が愛している。（自分で好きになら自分の作品はなかなかあるものではない。私は今自分のアトリエに賢治と高橋元吉の二つの像を列べて置いているが、だんだん「これで好む」と思ふようになる。）

先日遼河から帰つて、草野心平は「賢治は単純なんだなあ」と敬心していたが、これが賢治の真価である。

ある本の中で私はランボオと中原中也のことを言ひ、「ランボオは思想家ではない。しかしそれは、たとえば日本の詩人だ、いはばランボオに似ていた中原中也が、彼の友人仲間『思想家』小林秀雄や河上徹太郎よりも思想家だつた」という書物において『思想家』でないのと同じである」と書いたら、これを読んだ西脇順三郎がわざわざ手紙で、「それは全く至言だ」と書いてきた。これと同じことが賢治にも言えるだろう。アンリ・フアールが誰よりも「詩人」だつたという書物は、誰よりも「自然」「土」に密着してしていた「人間」だという意味である。ここまで来ると賢治とフアールを似ていふかふんとかか比べてみる必要もないのである。「お伽話」を書いた賢治がな、理解されるだろう。（彫刻家）

